

# 1. 全体概要

## 2-1 予算

2013年度のSACLAに関する予算については、試験・調整運転及び供用運転のための予算49.0億円が独立行政法人理化学研究所に交付された。また利用者選定及び利用者支援のための予算が公益財団法人高輝度光科学研究センターに4.3億円交付された。

## 2-2 組織

独立行政法人理化学研究所は設置者として、公益財団法人高輝度光科学研究センターは登録施設利用促進機関としての役割分担の下、SACLAは運営された。

## 2-3 運転状況

2013年度は、合計23ユニットの運転を実施し、総運転時間は7,017時間であった。

## 2-4 共用の状況

2013A期においては、申請59課題に対し24課題が、また、2013B期においては申請68課題のうち30課題がそれぞれ選定され、利用研究が行われた。

## 3-1 加速器

2013年のユーザー運転は、大きなトラブルもなく年間を通して順調に行われた。初年度同様計画した7000時間の年間総運転時間は無事クリアされ、施設稼働率は97.5%に達した。機器トラブル等で生じたダウンタイムを除く、レーザー総利用時間を利用運転時間で割った平均レーザー利用率は92%を上回った。

## 3-2 ビームライン・実験ステーション

2012年3月から供用運転を開始したSACLAは、当初の立ち上げ期を経て、2013年度は安定的に利用運転が実施された。2012年度に引き続き、ビームライン・実験ステーションの高度化が施設側と国内外の共同研究グループによって行われ、世界最高強度のX線を生成する50ナノメートル集光システムをはじめとする顕著な成果が達成された。

## 4. 国際協力

2013年度末時点で、アメリカ、ドイツ、スイス、韓国の4カ国の機関との間に研究協力を締結している。XFELサイエンスに関する情報交換及び研究者の交流等を行っている。

## 5. 研究会・国際会議等

アジア・オセアニア地域におけるFELサイエンスの発展を目的としてワークショップを開催した他、世界各地でのFEL施設の現状と今後の研究の展望について議論する場である3極ワークショップに参加した。

## 6. 広報活動

2013年度は、産業界を始め国民に広くSACLAを周知する広報事業を展開するため、PR会社との連携業務を実施した。また、2012年度から引き続き、多数の見学や取材に対応した。さらに、シンポジウムの開催やパンフレットの製作等を通して、SACLAの広報・普及活動に努めた。

## 7. 委員会活動

2013年度はSACLAにおける委員会活動として、選定委員会をはじめとする各種委員会を設置、開催してきた。利用者選定業務を行う際に意見を聴く委員会である「SACLA選定委員会」は、2013年8月及び2014年1月の計2回開催された。詳細及び他の委員会については、本文を参照していただきたい。